



# CHALLENGER

## [ 挑戦者たち ] ⑦



光プロジェクト

# OKINAREYO

ひとりの青年の発案によって始まった、  
「光プロジェクト」SANTO-OKINAREYO。  
町に希望の灯りを“と立ちあがった  
熱き6人の男たちの途方もない挑戦の物語。

### プロローグ

「はよう、起きなれよ早く、起きなさい」母親の呼ぶ声に、青年は目を覚ました。目覚めはあまりよくなかった。故郷・山東町に帰って、7年。町はどんどん活気を失っている。

「何とかしたい」という気持ちとは裏腹に、「自分に何ができるか」という自問自答が彼の中で続いていた。

但馬南部の町・山東町。但馬と丹波の国境にあたり、古くは山陰道の宿場町として栄えた交通の要所である。町内各所で「駅家」などの埋蔵文化財が発掘されており、往古より開けていた土地であった。

養蚕も盛んで、昭和40年頃には繊維産業が発展し、町の賑わいは最高潮に達する。

しかしながら、基幹産業の隆盛にかげりが見え始めると、人口は徐々に減り、若者は都会へと去っていった。バブル崩壊以後の近年では、シャッターを閉める商店も増え、やりきれない閉塞感が住民の心についた。

「起きなれよ」という山東の方言が、青年の胸につき刺さる。青年の心と同様に、町全体が眠りの中だった。

### 夢への始動

平成14年11月5日、但馬地方では厳しい冬の到来の季節。山東町でも、寒さで出歩く人の数が減り、寂しさが漂う。青年は、町の活気を取り戻したいという気持ちで、ますます強くなっていた。そんな時、青年の頭にふと「神戸ルミナリエ」の華やかな光景が浮かんだ。

## あなたを光の世界へ...

光プロジェクト「SANTO-OKINAREYO」



但南建設株式会社 藤井電機株式会社 株式会社山本組 株式会社桂野工務店



山東町役場に灯された色鮮やかなイルミネーション



震災イベントでは粟鹿川にたいまつ、そして1,000灯もの鎮魂のろうそくが灯され、町内外からたくさんの人が鎮魂の祈りを捧げた

「町中をイルミネーションで飾る」人々の暗くなつた気持ちを少しでも明るくしたいという一心で考えついたアイデアだった。

その時を振り返り、青年はこう話す。「とにかく居ても立ってもいられない気持ちになりました。翌日には賛同者を集めるために動いていましたからね。眠っていた心がまさに目を覚ました瞬間だったんです」

青年の発案から翌日には、教員、商店主、サラリーマンなど様々な職業の人間6名が、その趣旨に賛同し立ち上がった。

点灯式はその場で12月8日に決まる。神戸ルミナリエよりも1日早い点灯式。準備期間が約1カ月しかないという無理な計画に誰ひとり文句をいうものはなかった。メンバー全員が愛する故郷に希望の光を灯したいという思いに火がついていた。

たった1人の青年の小さな思いつきが、やがて町中を大きな炎で包む火種になるとはこの時メンバー全員知るよしもない。

こつこつと、無謀ともいえる「光プロジェクト」が動き出す。覚悟を決めた男たちの心に一片の迷いもなかった。

## ゼロからの出発

「お金もない」「知識もない」

現実を目を向けると、大きな問題が山積みだった。計画は町内の矢名瀬地区を走る国道427号末蔵橋から梁瀬病院間を、電飾イルミネーションで飾るつという壮大なもの。

まずは資金集めから始まった。計画書もなければ、大きなバックも無いプロジェクト。決まっていることといえば、12月8日に点灯式をするというだけだった。

「本当に町のみんなは協力してくれるだろうか」

資金集めは商店主たちが中心となり、自分たちのネットワークを駆使して、一軒一軒回っていった。点灯式まで1カ月。とにかく時間が無い。仕事の合間を縫っては日々奔走する毎日が続いた。中には借金をしてでも必ずやると心に決めた者もいた。そんなひたむきな姿が共感を呼んだのか、反応は意外にも好意的だった。期待しとるで」と喜んで寄付金を出してくれる住民たち。

「今思えば、海のものとも、山のものとも分らない計画によくお金を出してくれたと思います。故郷を元気にしたいという思いは誰も同じだったということなんです。期待の大きさをひしひしと感じました。成功とか失敗といったことはどうでもよかつ

**町に夢を、未来にロマンを。**  
光プロジェクト「SANTO-OKINAREYO」

株式会社オカグヤ 富田農機株式会社 町部エンジニアリング株式会社 クンセ株式会社 栗瀬工場





高さ約5メートル、「赤いくつ」のイルミネーション。  
 500メートルも続く光の通路は見る人を圧倒する。

た。とにかく芽生え始めた希望の灯を消してはいけないと思いました」とメンバーのひとり振り返る。

住民の賛同といつ心強い応援を得た光プロジェクト。しかし、点灯式まであとわずか3週間に迫っていた。

### 時間との戦い

資金集めに追われると同時に、町の建物をどう飾るかという会議が連日明け方まで繰り返されていた。残された日数はわずか。視察に出かける暇も、設計図を作っている時間もない。何を飾っていいのかさえも分からなかった。

「赤いくつを飾らないか？ と言ったのはあるメンバーの一人だった。仕事場から帰る途中、暗い夜道にいつも気持ちが沈んでいた。

「ここに灯りがあれば、仕事で疲れた体がどんなに癒されるか」

その一言で、最初の飾り付けは「赤いくつ」に決まった。

組み立て作業は携帯電話を使って、現場と直接やりとりされた。施工は低報酬でも快く引き受けてくれた地元業者。設計図もなく、その

都度、言い渡される無理難題にも、もくもくと作業をこなしてくれた。

そして、運命の12月8日点灯式。がむしゃらに走り続けた1カ月だ

た。男たちはついにその時を迎える。

### 優しい光が街を照らす

「やれることはすべてやった」点灯式当日、メンバーの顔は緊張よりも晴れがましい表情を浮かべていた。

プロジェクト名は、OKINAREYO（おきなれよ）。発案者である青年

の心を深く突きさしたあの方言だった。

メンバーはこの言葉に、「起きなさいよ。目を覚まして奮起しましょう。」「大きくなれよ。個人も町ももっと成長しましょう」との願いを込めていた。

カウントダウンが始まり、いよいよ点灯スイッチが押される。山東町の町並みに、次々と色とりどりのイルミネーションの光が灯った。わきあがる歓声。その中でもひととき感動を呼んだのが、あの「赤いくつ」だった。お世辞にも形がいいとはいえないそのくつは、その優しい光でたくさん人のドライバーの心を癒し続けた。

さらに12月23日には、「1日早いクリスマスインフ」と題し、子ども500人分のプレゼントを用意。子どもたちに希望をもってもらおうと、イベントも企画した。

「自分たちの燃えあがった炎はいつかは消えます。この光をなんとか次の時代を担う子どもたちが受け継いで欲しい。この光のリレーをつない



## 緑風の郷 山東町

光プロジェクト「SANTO-OKINAREYO」

株式会社四和リープス 鎌倉金属工業株式会社 此の女酒造株式会社 山東町商工会

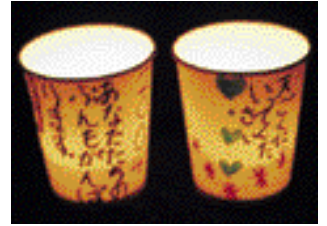




山東町商工会館に飾られたゴジラのイルミネーション



雪のストリートに輝く幻想的な光の風景



震災イベントで灯された鎮魂のろうそく。子どもたちがそれぞれの思いを灯に託した。



「1日早いクリスマスイブ」はたくさんの子どもで賑わった



町を活性化したいと立ち上がったプロジェクトメンバーの面々

「してくれることを強く願っています」  
 住民の気持ちにも変化があった。  
 誰にもうながされることなく、自分  
 たちの家を電飾で飾り始めたのだ。  
 「自分たちのやうたことに間違いはな  
 かった」住民が少しずつ目を覚ましつ  
 つある現状に、メンバー全員が何に  
 もかえがたい充実感に包まれていた。

「気がきました」と、メンバーは光のも  
 つパワーに驚きを隠せない。  
 そのパワーをさらに活かしたいとい  
 う思いから、「阪神・淡路大震災 鎮  
 魂のろうそくイルミネーション」を開  
 催。これは、被災者でもあるメンバー  
 からの提案だった。震災で体験した住  
 民同士の助け合いの精神を、いつまで  
 も伝えたいという気持ちがあった。

「おきななれよ」という方言を合言  
 葉に、町に夢と希望を与えた、山  
 東・光プロジェクト。町では若者を  
 中心としたサークルが立ちあがるな  
 ど、少しずつではあるが、OKINA  
 REYOの願いが形になりつつある  
 という。「おきななれよ」というこの方  
 言は、先人たちが現代の山東町民に  
 残したメッセージなのかも知れない。

約10万個の電球が山東の街を優  
 しく照らす。2年目を迎えても、6  
 人のメンバーの熱い思いは健在だ。1  
 年目以上の協力を得て、電球の数も  
 2倍になった。各地からの問い合わせ  
 せも殺到し、今では観光バスのバスカ  
 イドが紹介するほど。

「そんな山東伝統の心意気や思いや  
 りの気持ちを子どもたちに伝えたい」  
 こうして、「OKINAREYO」に  
 3つめの願いが込められる。置きま

「SANTO-OKINAREYO」点  
 灯期間：12月5日～来年1月5日ま  
 で毎日17時半～23時。場所：山東町  
 矢名瀬地区国道427号沿い（山東  
 町役場周辺）。その他、特別イベン  
 トも開催、詳細は14ページで。



お客さまの目線で

お客さまを最優先に

ありがとうの気持ちを込めて

地域とともに発展する

